

戦略の構成について

※青字は本日の検討事項、アンダーラインがある項目は本日資料があるもの

あいさつ

1. 基本事項

- 1-1 背景・目的
- 1-2 対象期間
- 1-3 構成

2. 観光を取り巻く現状と課題

- 2-1 全国の観光の現状
- 2-2 愛知県の観光の現状
- 2-3 犬山市の観光の現状
- 2-4 現状と課題の整理

3. 観光の歴史的経緯と資源

- 3-1 観光振興の歴史的な経緯
- 3-2 犬山市内・周辺・広域の観光資源
- 3-3 犬山市らしさの特徴

4. 観光戦略の体系

- 4-1 犬山らしさの基本コンセプト
- 4-2 目指すべき観光地の姿
 - ① 3つの基本理念
 - ② 観光まちづくりの将来像
- 4-3 対象となる観光客層への対応
- 4-4 施策の基本方針と推進体制
- 4-5 施策の体系整理
- 4-6 施策の総括表
- 4-7 将来構想図

5. 目標設定

6. 重点プロジェクト

(1) プロジェクトマップ

(2) 重点プロジェクト

- 6-1 遊園ルネサンス
- 6-2 日本ライン再発見ルート
- 6-3 城下町景観・環境レベルアップ
- 6-4 城下町クリエイティブ層の移住マッチング
- 6-5 SDGs 体験・学習サイト
- 6-6 クロスオーバー資源開発
- 6-7 ユニーク MICE

資料 2

資料 3

資料 4

資料 5

7. 方針別の施策

- 7-1 滞在・体験型観光の充実
- 7-2 域内循環型の観光経済の確立
- 7-3 資源発掘・創造・ブランド形成
- 7-4 景観・インフラの整備
- 7-5 みんなでつくる観光施策
- 7-6 データを活用したプロモーションの展開
- 7-7 自然災害・衛生のためのマネジメントの充実
- 7-8 マネジメントを重視した観光推進体制の整備

資料 6

8. コロナ禍からの回復プログラム

資料 7

9. 戦略の評価と見直し（PDCAの考え方）

資料 8

- 資料編
- 1・戦略策定の体制と経緯
 - 2. 観光関連データと主要な資料

強み(Strengths)	弱み(Weaknesses)
＜犬山の資源＞ ・明確なランドマーク「国宝犬山城」を有する ・大規模集客施設(テーマパーク)を有する ・城下町、ユネスコ無形文化遺産である犬山祭、からくり文化、木曾川うかい、国宝茶室如庵などの歴史、文化を有する ・木曾川、里山、景勝地など豊かな自然を有する ・ホテルμスタイル犬山エクスペリエンス、ホテルインディゴ犬山有楽苑の開業 ・観光ニーズの 5 割を超えるコンテンツを有する(歴史、文化、町歩き、食べ歩き、自然景観) ＜立地・交通面＞ ・名古屋駅からの速達性に優れる(約 30 分圏) ・高速道路、幹線道路により域外からのアクセスに優れる	＜観光客の動向＞ ・宿泊客が減少傾向 ・テーマパーク来訪者の複数立ち寄りが少ない ・バスツアーの市外宿泊・市外屋食 ＜犬山の資源＞ ・夜間に利用出来る店舗、施設が少ない ＜消費・経済面＞ ・訪問者の消費額の低さ(日帰り:3,846 円、宿泊 15,130 円) (市内宿泊者の消費単価は 2012 年に比べて減少) ・代表する名物イメージが希薄(約半数が「思い浮かばない」) ・特産品、名物が少ない ・市全体産業における「宿泊業、飲食サービス業」が占める割合は売上高 4.0%、従業者数 8.1%と少ない(2016 年経済センサス) ・体験型コンテンツが少ない ・観光人材の担い手の不足 ＜立地・交通面＞ ・市内の回遊性が乏しい(1 カ所立ち寄りが 64%) ・観光資源が市内に広く分布し、2 次交通が不便 ＜コロナ禍における需要の変化＞ ・臨場感を味わえるような仕掛けや工夫がこれから必要。 ＜コロナ禍における事業者に降りかかった課題＞ ・感染症対策を講じている店舗、講じていない店舗などばらつきがある。 ・事業者同士の情報共有・意見交換の仕組みがない。 ・マイクロツーリズムだけでは犬山、名古屋のホテルは埋まらない。
機会(Opportunities)	脅威(Threats)
＜コロナ前における観光客の動向＞ ・全国的な外国人観光客の増加 ・観光、旅行の多様化(個人旅行化など) ・観光入込客数は増加傾向(H25:約 534 万人→R1:約 563 万人) ・犬山城登閣者数の増加(H25:約 44 万人→R1:約 59 万人) ・外国人は香港、中国、台湾が多い(宿泊者:約 5 千人(R1)、犬山城登閣者約 3.6 万人(R1)とともに増加傾向) ・新たな客層の取り込みに成功(特に若い女性) ・近隣からの来訪者が多い(愛知県、岐阜県で 7 割程度)(犬山～名古屋との繋がりが強い。岐阜県民のリピートが比較的多い) ＜消費・経済面＞ ・コト消費への要望の高まり ＜住民の生活＞ ・受入環境整備(トイレ、休憩場所等) ＜コロナ禍における需要の変化＞ ・屋外テーマパークに、予定していなかった県内学校による教育旅行(遠足、修学旅行)の団体が来るようになった。 ・三密が回避できるところに観光客が来るようになった。	＜住民の生活＞ ・観光客集中による城下町の生活環境への影響(ゴミのポイ捨て、道路混雑、私有地への立入) ・住民、観光客、事業者の対話の不足 ＜コロナ禍における三密の回避＞ ・三密が生じる可能性があるイベント・催事は中止。実施できない状況にある。 ・伝統行事、催事が止まることで地域コミュニティの持続性が損なわれる恐れが出てきた。何らかの形で本質的なところは残していかなければ観光も維持できなくなる。 ＜コロナ禍における需要の変化＞ ・アウトドア需要が大きく高まっている。高まり過ぎて密を心配する声もある。 ・店舗(特に城下町)によって事業の好不調の差が生じている。 ・宿泊者数は激減。 ・平日と土日の客数の違いがこれまで以上に大きくなっている(平準化できていない)。 ・移動、交流を生業としているところは大打撃。 ・団体旅行が非常に厳しい状況 ＜コロナ禍における苦情の内容の変化＞ ・感染に対する恐れに関する住民や観光客からの苦情・不安の声が聞かれる。 ＜コロナ蔓延により観光施策に大きな影響＞ ・公共駐車場収益の大幅な減。 ・予算が削減。 ・宣伝活動の自粛、観光に関する会議等が中止に。 ・鵜飼事業は観覧者数が激減。

観光による地域経済の活性化・住民と観光客の共存による新たな観光まちづくり

課題

滞在・宿泊

- ・日帰り観光客の滞在時間を延長させる必要がある
- ・宿泊客数の増加が必要
- ・複数立ち寄りによる滞在時間の延長が必要
- ・犬山城、城下町、木曾川河畔など回遊性を高め滞在時間・宿泊者数を増加させる必要がある
- ・立地アクセスの良さを活かした首都圏等、広域誘客（リニア新幹線を見据え）の増加が必要
- ・名古屋宿泊から犬山宿泊へ誘導する必要がある
- ・夜の魅力づくりによる滞在延長・宿泊の増加が必要
- ・体験メニューの充実による滞在時間を延長させる必要がある
- ・新たな宿泊施設との連携により宿泊者数を増加させる必要がある
- ・インバウンド需要取込みによる宿泊者数を増加させる必要がある
- ・平日と休日、繁忙期と閑散期など平準化・分散化の必要がある。
- ・域内消費を増加させる必要がある
- ・消費額を増加させる必要がある
- ・MICE 客の誘致が必要

魅力の向上

- ・木曾川「日本ライン」としての魅力を再構築する必要がある
- ・木曾川河畔の魅力を向上させる必要がある
- ・歴史・文化資源を磨き上げる必要がある
- ・既にある特産品を磨き上げる必要がある
- ・新たな名物の発掘・創出をする必要がある（コンテンツづくり）
- ・高単価、高付加価値の商品を造成する必要がある
- ・豊かな自然（里山、景勝地）の活用・アウトドアを開発する必要がある
- ・ブランド力を向上させる必要がある

おもてなし・受入体制整備

- ・観光客と住民との共存・調和が必要
- ・観光地としての感染症対策が必要
- ・災害・衛生マネジメントが必要
- ・観光人材の育成が必要
- ・観光に関わる人の増加が必要
- ・受け入れ環境の整備が必要（看板、ゴミ、休憩所、施設整備）
- ・郷土愛の醸成が必要

3-1 観光振興の歴史的な経緯

江戸期以降の犬山市における観光に関する特記事項やこれに関連する交通関連事業等の系譜を整理した。これを見ると、犬山市における観光の潮流は以下のように要約することができる。

●江戸期 [1600～1867 年]

中山道街道時代・・・中山道の木曾川の名所を楽しむ「立ち寄り型観光」

1537 年（天文 6 年）に織田信康により築城されたと伝えられる犬山城は、1617 年（元和 3 年）に成瀬正成が犬山城を拝領し、以来、9 代にわたり 1871 年（明治 4 年）まで成瀬家が管理を行ってきた。同時に、城下町も成瀬家により形成され、酒造や茶の湯などの様々な文化が花開いた。中でも茶の湯文化は、茶器である犬山焼や製菓業、茶室の建築など多方面にわたって城下町の町衆文化にも影響を与え、その文化は現在の城下町にも脈々と受け継がれている。

江戸時代になると、徳川幕府は全国の街道の整備を進め、尾張藩領内でも犬山は重要な交通の拠点として、名古屋から楽田・善師野をとおり中山道につながる木曾街道や名古屋城下と犬山城下を結び、木曾川の内田渡しを使い中山道鵜沼宿へ行くこともできる犬山街道（稲置街道）などが整備され、公務の大名行列や物資、旅行の庶民たちが行き交った。

なお、木曾街道六十九次の溪斎英泉画「五十三 木曾街道鵜沼ノ駅從犬山遠望」にて、木曾川を望む犬山城が描かれており、当時の観光案内として紹介されている。



五十三 木曾街道鵜沼ノ駅從犬山遠望

●明治・大正・昭和前期（戦前） [1868～1949 年]

日本ライン下り観光時代・・・風光明媚な自然や名所を楽しむ「宿泊慰楽型観光」

1902 年（明治 35 年）の木曾川での観光鵜飼の開始が犬山市観光開発の始まりであるが、特に著名な地理学者であった志賀重昂氏が 1913 年（大正 2 年）犬山市付近の木曾川の流れを称して「日本ライン」と命名したことが犬山市の知名度を大いに高め、観光地としてのキャッチコピーとしても大いに効果的であったと言える。

また、引き続き木曾川が「日本八景」に当選するとともに、木曾川の名勝指定、犬山城の国宝指定、日本画家吉田初三郎の犬山城下町鳥瞰図も観光地としても知名度アップに拍車をかけたと思われる。こうした観光地としての知名度アップは多くの宿泊客を引き付け、木曾川河畔に観光旅館街を形成するに至った。

この間、現名鉄は犬山線、広見線、各務原線の鉄道を開業するとともに、「犬山遊園」という遊園地を開園するなど、鉄道利用者の増進に向けた観光事業の展開を行っている。



吉田初三郎「犬山城下町鳥瞰図」

●昭和中期（戦後・高度成長期） [1950～1989 年]

テーマパーク観光時代・・・非日常的な時間・空間を楽しむ「日帰りレジャー型観光」

戦後 1950 年代から 1980 年代の高度経済成長期は国民の所得水準が大いに向上し、レジャー、レクリエーション需要も増大した（東京オリンピック、日本万国博覧会の開催）。こうした需要増を受け、名古屋都市圏の成長発展に伴う日帰り型の観光レク需要増大に対応すべく名鉄はモンキーセンター、犬山野猿公苑、明治村、リトルワールド等のテーマパークを開園した。また、犬山温泉、名鉄犬山ホテルの開業もこの時期である。このように、この時期は名鉄による観光事業が集中的に行われた時期である。

●平成期（低成長期） [1990～2011 年]

城下町観光時代・・・歴史的な町並みの中で飲食や買い物を楽しむ「日帰り郷愁型観光」

1990 年代に入ると犬山市による城下町関連施設が多く建設される。文化史料館、どんでん館、しみんてい、磯部家住宅、余遊亭等の施設がそれである。これら施設の特徴は観光施設であるとともに市民交流施設としての機能も期待される施設であることである。そして、城下町の町並みに大きな魅力を与えたのが城下町の背骨とも言うべき本町、中本町通りの電線の地中化及び道路の美装化である。これは、当該通りに都市計画決定されていた都市計画道路の幅員を現道幅員に変更し、現在の町並みを維持しながら道路整備を行う事業であった。こうした犬山市のまちづくり事業により城下町の町並みの質は大いに向上し、城下町への来訪者数は増大した。

●平成期（SNS 期） [2012～2019 年]

SNS 観光時代・・・インターネット上で発信される観光地情報を追体験する「SNS 拡散型観光」

SNS の一層の普及に伴い、インスタグラム等によるご当地情報発信が若い世代に響き、多くの若い女性客を呼び込んでいる。この観光客の増大は一層の観光客向け店舗の立地を促し、さらなる集客増をもたらすことになった。

一方、この観光客の特徴は日帰り観光主体であること、インスタ映えするファーストフードを歴史的な郷愁感を歩きながら、食べながら楽しむお手軽な観光であることである。その結果、多人数の来訪によるオーバーツーリズム問題（交通混雑、ごみの放置、住民生活との軋轢等）が生じるとともに、宿泊客が少なく、また、客単価も低いことから観光産業としての地域貢献はまだ顕在化していない状況にある。

●令和期 [2020 年～]

ウイズコロナ観光時代・・・安全安心に本物を楽しむ「体験型宿泊観光」を目指して

平成期の人気が続いた令和期であったが、2020 年（令和 2 年）に世界を襲った新型コロナウイルスにより世界、日本の観光状況は激変した。感染予防のため海外旅行は大きく制限されてインバウンド観光需要は消失、国内旅行も移動制限が実施されることから大幅に減少した。こうした観光需要の大幅減の中で 2021 年（令和 3 年）名鉄による 2 つの新たなホテルが開業することとなった。

観光需要の地域経済に対する経済効果を高めるには客単価の高い（付加価値の高い）宿泊型観光と体験型観光を増やすことが必要と言われる。本物の自然環境や歴史文化を多く有する犬山市ではこれら資源をもう一度見つめなおし、その本質的価値を認識した観光商品の開発と販売が課題である。

【まとめ】

犬山市では、大正・昭和前期においては「日本ライン」という風光明媚で著名な観光地として広くから観光客が訪れる宿泊型観光地として発展した。しかし、高度経済成長期以降は、国民所得の上昇、名古屋大都市圏の発展に伴う日帰り観光レク需要の増大、国内外の観光地間の競争発生、団体旅行から個人旅行への観光タイプの変化などを背景に、日帰り観光地としての役割を果すことになった。観光事業者の誘客施策や市による歴史まちづくりの成果もあり、近年は観光公害が発生するほどの入込客数となっていたが、宿泊観光客の少なさを背景に観光の産業化までには至っていない。

2020 年に世界を襲った新型ウィルスの感染はこうした観光動向に大きな影響を与え、特にインバウンド観光は消失する事態となっている。

国内外の今後の観光需要の見通しはこの感染症の動向やワクチン接種の進展により影響を受けられるが、国民のライフスタイル、ワークスタイルの変化に対応して観光レク需要は今後も増大し、多様化すると見込まれることから、こうした観光需要に的確に対応し、地域産業の活性化や市民のシビックプライドの向上につなげる観光戦略策定が望まれる。

■犬山市における観光開発の系譜

元号	和暦	西暦	観光関連	交通関連	備考
明治	15	1882	「針瀬神社」を現在地に遷座		
	28	1895	大山城、愛知藩より旧大山藩家臣に帰属譲渡		
	35	1902	大山水産会社設立、「観光橋脚」始まる		日露戦争（1904-1905）
	1	1912		日本 ライ ン 橋 光	
	2	1913	志賀重昂が「日本ライン」命名		
	3	1914	大山造船株式会社設立、「ライン下り」開業		
	12	1923	「ヒトツバタロ自生地」国の天然記念物に指定 日本通商手続簡便法大		関東大震災
	14	1925	名古屋鉄道「大山駅」を開設		
	1	1926	木曾川（日本ライン）が「日本八景」に当選		
	2	1927	「橋太郎神社」創設		
	5	1930	「木曾川」が国の名勝指定		
	6	1931	「大山城」が国の名勝指定（国宝保存法）		
	10	1935	入道工池田英三、入道池で「ボート軍」開業		
昭和	12	1937			日中戦争始まる
	16	1941		名鉄大山線新名古屋駅へ延伸 第2次世界大戦	
	25	1950	「大山遺跡中」発見記念バウタイス開設 「大山城」が新聞で指定（文化財保護法）		朝鮮戦争
	28	1953	成田山名古屋御陰大誓寺」創設		
	29	1954	「大山観光協会」発会		
	31	1956	「日本モーターセンター」設立 「カッパジ」(現モーター)「が遊園地として開業		
	12	1957	「大山野橋公園」開園		
	34	1959	「大山ユースホステル」完成		
	35	1960	「大山温泉」開湯（26の旅館に給水）		
	36	1961	「世界サル動物園」開園		
			「愛知用水」通水		
	37	1962		テ ィ マ バ ー ク 光	
	38	1963	犬山市旧体育館完成		
	39	1964	「橋本木曾川国定公園」に指定 「大山温泉」が市営となる		観光基本法制定 東京オリンピック開催
	40	1965	博物館「明治村」開館 「名鉄大山ホテル」開業		
	42	1967	京都大学霊長類研究所開所		
	44	1969			
	45	1970	旧福祉会館完成		
	47	1972	有楽荘に国営「和室」と「旧世伝書院」の修築完工		
	48	1973	東之宮古墳発掘		
			第1次石油危機（1973/74）		
	50	1975	八景自然体育館開業		
	54	1979		中央道東小牧IC開業	
	55	1980	第1回日本ライン賞授与開催		
	58	1983	野外民族博物館「リトルワールド」開館 武道館完成		
	60	1985		大山駅東西連絡橋開通	つくば科学万博開催
	61	1986		有料道路尾張パークウェイ開業	
	62	1987	犬山市文化史料館開館		名古屋空港整備法（リゾート法）制定
			バブル景気の崩壊		
平成	4	1992	大山商工会議所創立		
	5	1993	都市景観条例制定		松の万博開催（1990）
	7	1995	大山国勢3-225x19in「今休」犬山」開業 「大山国際観光センター」完成		阪神淡路大震災
				阪神淡路大震災	
	8	1996	犬山市文化史料館別館「からくり展示館」開館 第1回「大山お祭り」開催 「国営公園文化芸術」に指定		
	12	2000		「ツインブリッジ」開通	東洋水産のトップ（1998）
	13	2001	中本町まちづくり拠点施設「どんでん館」開館 市健康センター「くらさくら」開館 市生涯学習センター「しあてい」開館		
	15	2003	ライン下り事業名鉄譲渡、「木曾川観光株式会社」設立・事業継承		
	16	2004	「日本ライン広域観光推進協議会」設立		
	17	2005	「木曾川歴史館」設立 第1回「城下町秋まつり」開催	中部国際空港（セントレア）開港	あいち万博開催
	18	2006	登録有形文化財旧「磯部家住宅」開館	城 下 町 光	観光立国推進基本法制定
	19	2007	美しい日本の歴史の町100選に「木曾川と城下町」選定		
	20	2008	平成の名水100選に「八重瀬」が選定 赤坂木戸口まちづくり拠点施設「赤坂亭」別館開館		
	21	2009	「大山新行舎」完成		
	22	2010	城下町整備計画「地中化」 のトップ「11第2期市庁舎大山「観光特選」に指定 豊橋木曾川敷芝生公園完成		
	23	2011	国交省まちづくり部「宮入賞受賞（大山北のまちづくり協議会）」 城下町の道路美観化		東日本大震災
	24	2012	旧磯部家住宅開館		
	25	2013	ライン下り事業廃止		
	26	2014			
	27	2015			
	28	2016			
	29	2017			
	30	2018	旧体育館撤去・工事完了		
	1	2019			
	2	2020	旧福祉会館撤去		
	3	2021	ホテルインディゴ有楽荘、大山エクスベリエンス開業		

※本資料は、「犬山市史」「名古屋鉄道百年史」より作成

※赤字は名鉄に関する事業

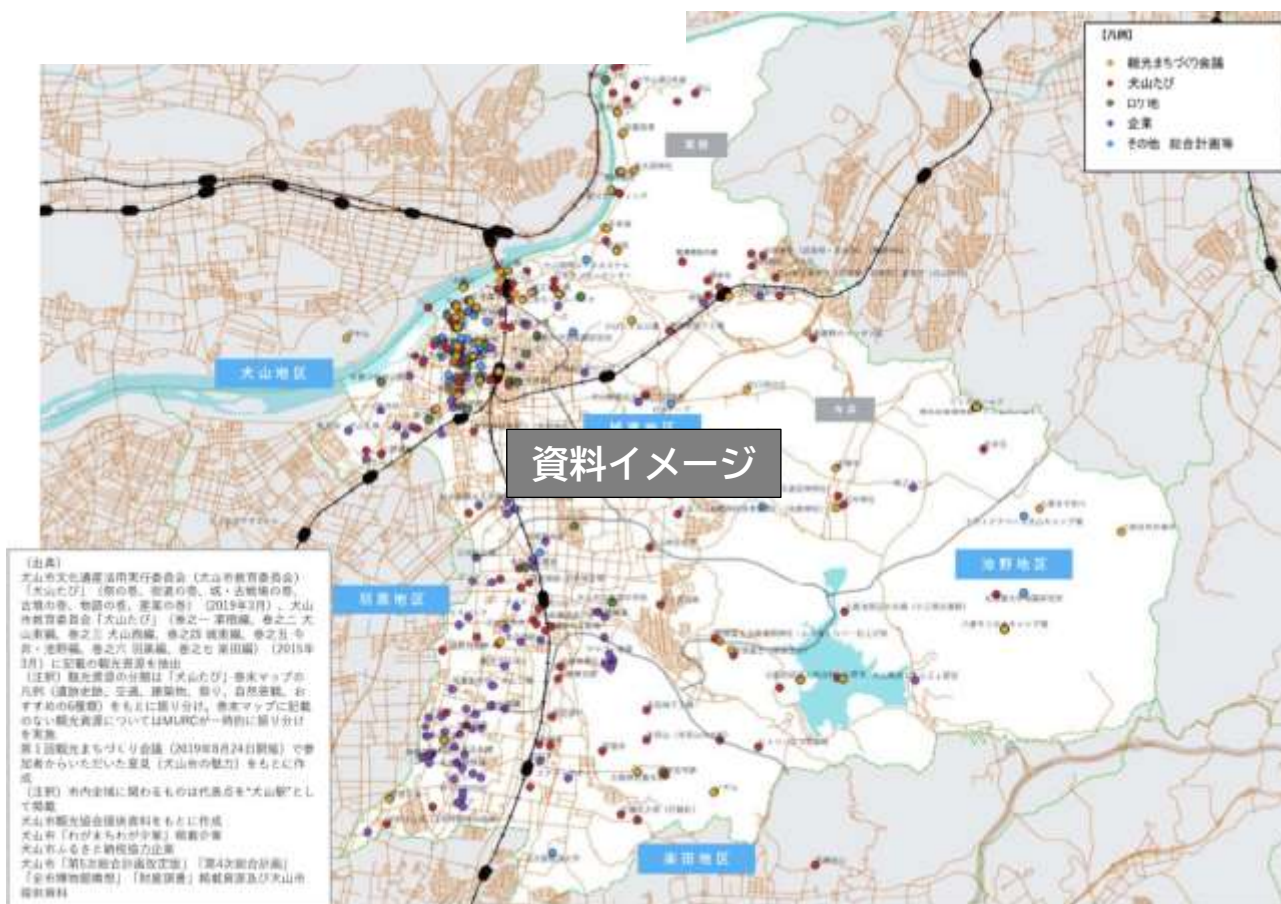
3-2 犬山市内・周辺・広域の観光資源

犬山市及びその周辺には、自然、歴史・文化、レジャー施設など様々な観光資源が点在している。特に犬山市内においては、全国的にも知名度が高い犬山城及び城下町をはじめ、明治村やリトルワールドなどのテーマパークがあり、多くの観光客を呼び寄せている。

また、犬山市周辺においても、同様に様々な観光資源を有していることから、犬山市を起点とした周遊観光も期待されるところである。以下に犬山市内、犬山市周辺の観光資源を示す。

(1) 犬山市内の観光資源

【犬山市全域】



【城下町】

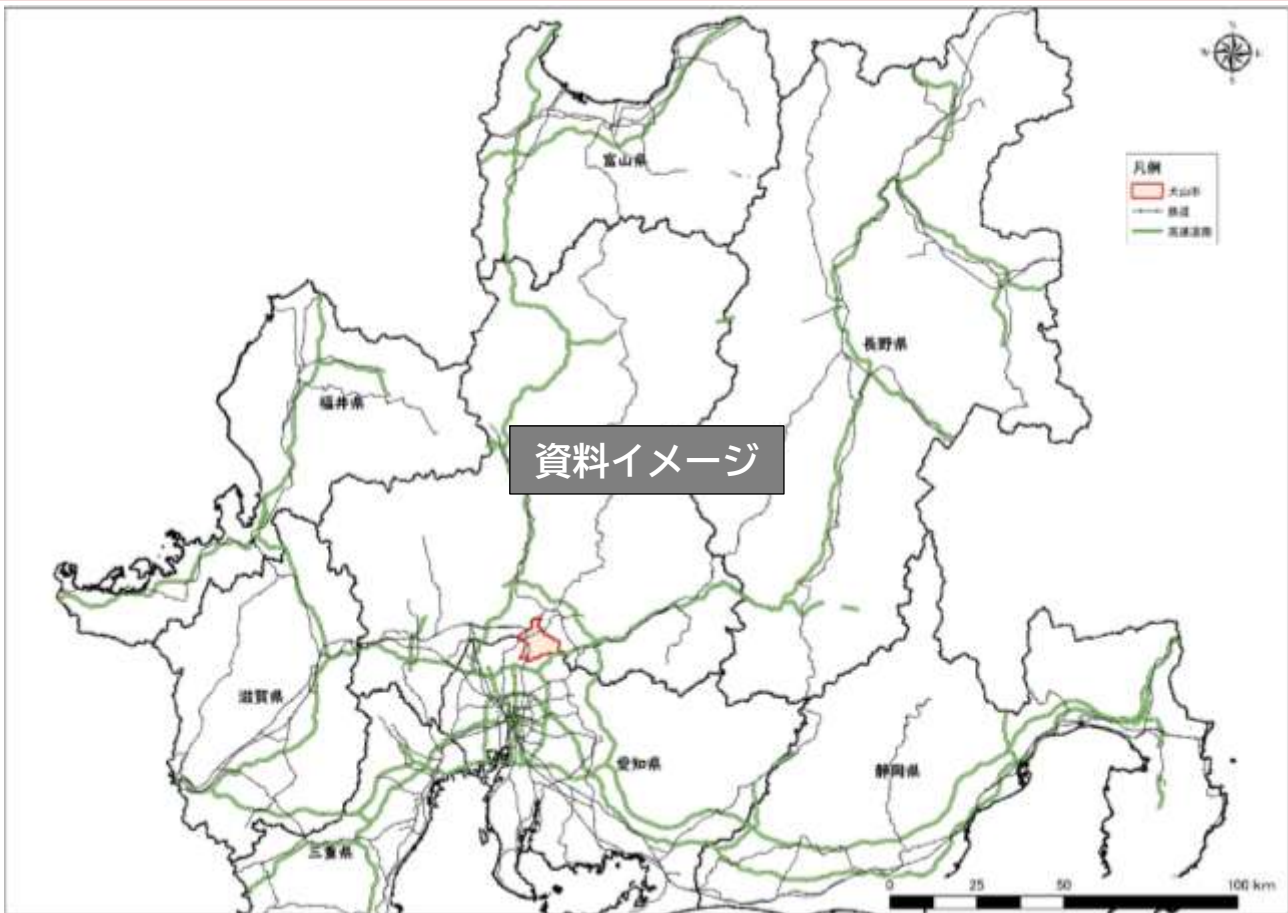


（2）犬山市周辺の観光資源



(3) 広域の観光資源

【テーマ：木曽川】



【テーマ：城・古戦場】



【テーマ：街道】



【テーマ：昇龍道プロジェクト】





3-3 犬山らしさの特徴

犬山には城、城下町が主要な観光資源として存在しているが、原点回帰をすると「水」がもたらす「水景」が大きくすべてをつなぐものとして浮かび上がる。

(1) 自然的特徴

◆犬山の地理的な特性が生み出したもの、こと

- ①木曽川が濃尾平野に流れ出るまさに扇の頂に位置し扇状地の始まりになるところという特徴的な地形の中にある。
- ②荻生徂徠や志賀重昂といった歴史上の人物が白帝城、日本ラインと名付けるような風光明媚な資源があった。
- ③かつて木曽川が物流の大動脈として使われていたとき、犬山には湊があり、物資の集散地として発展した経緯がある。
- ④この地が天然の要害ということで成瀬家が城下町を形成。
- ⑤木曽川を資源に尾張名古屋の奥座敷として観光地を形成してきた
- ⑥吉田初三郎が描いた名勝日本ライン
- ⑦市内の多くの校歌にも木曽川に関する詞が歌われており、暮らす人たちにも潜在的な資源として認識されている。

◆犬山で取られた水が地域全体を潤している

- ①愛知用水
- ②県営上水道（取水）
- ③名古屋上水道（取水）
- ④入鹿池（国内最大級の農業ため池、世界かんがい施設遺産）
- ⑤多くの農業用水（木津用水、宮田用水）
- ⑥多くのため池



◆水の豊富さ、良さによってはぐくまれた産物

- ①守口大根
- ②桃
- ③地酒、ビール
- ④鮎
- ⑤豆腐
- ⑥こんにやく
- ⑦ワカサギ

（２）歴史的、文化的特徴

◆木曽川を資源とする文化

- ①1300年受け継がれている伝統漁法の鵜飼
- ②遊覧船、川下り
- ③川祭



◆城下町

- ①その時々流行り物を楽しむことができる空間（産業の集積地）



◆価値づけされたもの

- ①国宝犬山城天守（文化庁）
- ②国宝茶室如庵（文化庁）
- ③ユネスコ無形文化遺産犬山祭（ユネスコ）
- ④旧正伝院書院など市内各所にある重要文化財（文化庁）
- ⑤重要文化財11棟を含む明治建築が集まる博物館明治村（文化庁）
- ⑥磯部家住宅など市内各所にある登録有形文化財建造物（文化庁）
- ⑦名勝木曽川（文化庁）
- ⑧飛騨木曽川国定公園（環境省）
- ⑨世界かんがい施設遺産入鹿池（国際かんがい排水委員会）
- ⑩平成の名水百選八ヶ岳ノ滝（環境省）
- ⑪史跡青塚古墳（文化庁）
- ⑫史跡東之宮古墳（文化庁）
- ⑬史跡犬山城跡（文化庁）



◆工芸

- ①犬山焼
- ②からくり人形

◆風習

- ①石上げ祭



◆学術的価値が高いもの

- ①博物館明治村
- ②日本モンキーセンター
- ③野外民族博物館リトルワールド



◆街道

- ①上街道、稲置街道など

(1) 出現頻度の高い語句

- ・「流れ」が8回出現するなど、「木曽」「水」といった水に関わる言葉の出現頻度が最も高い。
- ・次いで、「城」「歴史」「古い」などの歴史に関わる言葉の出現頻度が高い。
- ・このほか、平野、山に関する言葉の出現頻度が高い。

※「犬山」「中学校」「小学校」など、犬山市の学校の校歌に当然に出現する言葉は抽出しないように設定

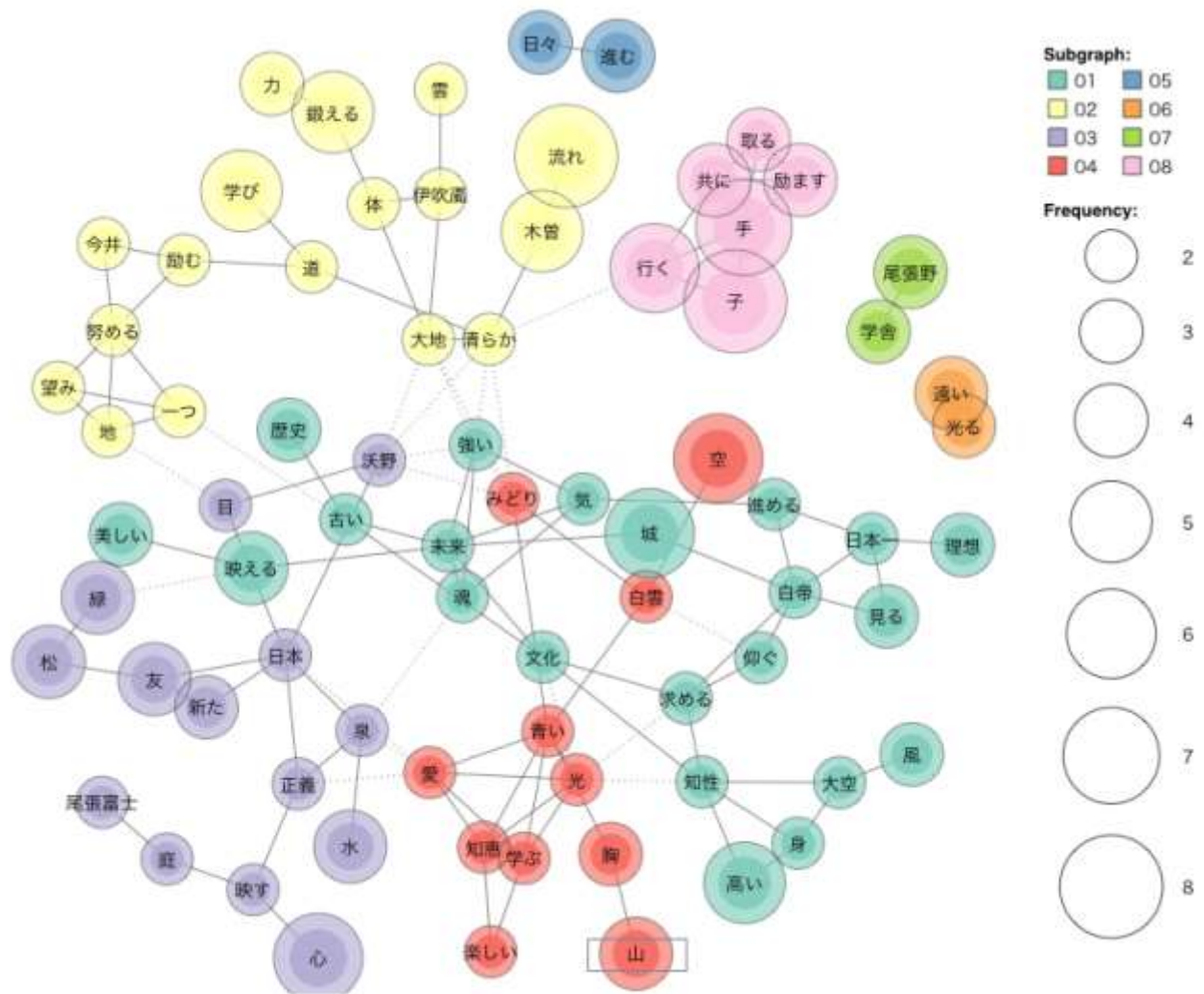
1	子	名詞C	8
2	流れ	名詞	8
3	手	名詞C	7
4	生きる	動詞	7
5	空	名詞C	6
6	行く	動詞	6
7	城	名詞C	6
8	心	名詞C	6
9	学び	名詞	5
10	高い	形容詞	5
11	清い	形容詞	5
12	鍛える	動詞	5
13	豊か	形容動詞	5
14	木曽	地名	5
15	映える	動詞	4
16	遠い	形容詞	4
17	歌う	動詞	4
18	共に	副詞	4
19	山	名詞C	4
20	松	名詞C	4
21	進む	動詞	4
22	水	名詞C	4
23	尾張野	タグ	4
24	命	名詞C	4
25	友	名詞C	4
26	緑	名詞C	4
27	励ます	動詞	4
28	学舎	名詞	3
29	丘	名詞C	3
30	胸	名詞C	3
31	見る	動詞	3
32	光る	動詞	3
33	広い	形容詞	3
34	姿	名詞C	3
35	取る	動詞	3
36	新た	形容動詞	3
37	東部中	組織名	3
38	日々	副詞可能	3
39	尾張	地名	3
40	美しい	形容詞	3
41	風	名詞C	3
42	平和	形容動詞	3
43	理想	名詞	3

44	力	名詞C	3
45	歴史	名詞	3
46	みどり	地名	2
47	愛	名詞C	2
48	伊吹風	タグ	2
49	一つ	名詞	2
50	雲	名詞C	2
51	映す	動詞	2
52	学ぶ	動詞	2
53	楽しい	形容詞	2
54	気	名詞C	2
55	求める	動詞	2
56	強い	形容詞	2
57	仰ぐ	動詞	2
58	古い	形容詞	2
59	光	名詞C	2
60	今井	人名	2
61	魂	名詞C	2
62	身	名詞C	2
63	進める	動詞	2
64	正義	名詞	2
65	清らか	形容動詞	2
66	青い	形容詞	2
67	泉	名詞C	2
68	体	名詞C	2
69	大空	名詞	2
70	大地	名詞	2
71	知恵	名詞	2
72	知性	名詞	2
73	地	名詞C	2
74	庭	名詞C	2
75	努める	動詞	2
76	道	名詞C	2
77	日本	地名	2
78	日本一	名詞	2
79	白雲	名詞	2
80	白帝	タグ	2
81	尾張富士	固有名詞	2
82	文化	名詞	2
83	望み	名詞	2
84	未来	名詞	2
85	目	名詞C	2
86	沃野	名詞	2

(2) 出現頻度の高い言葉の関連

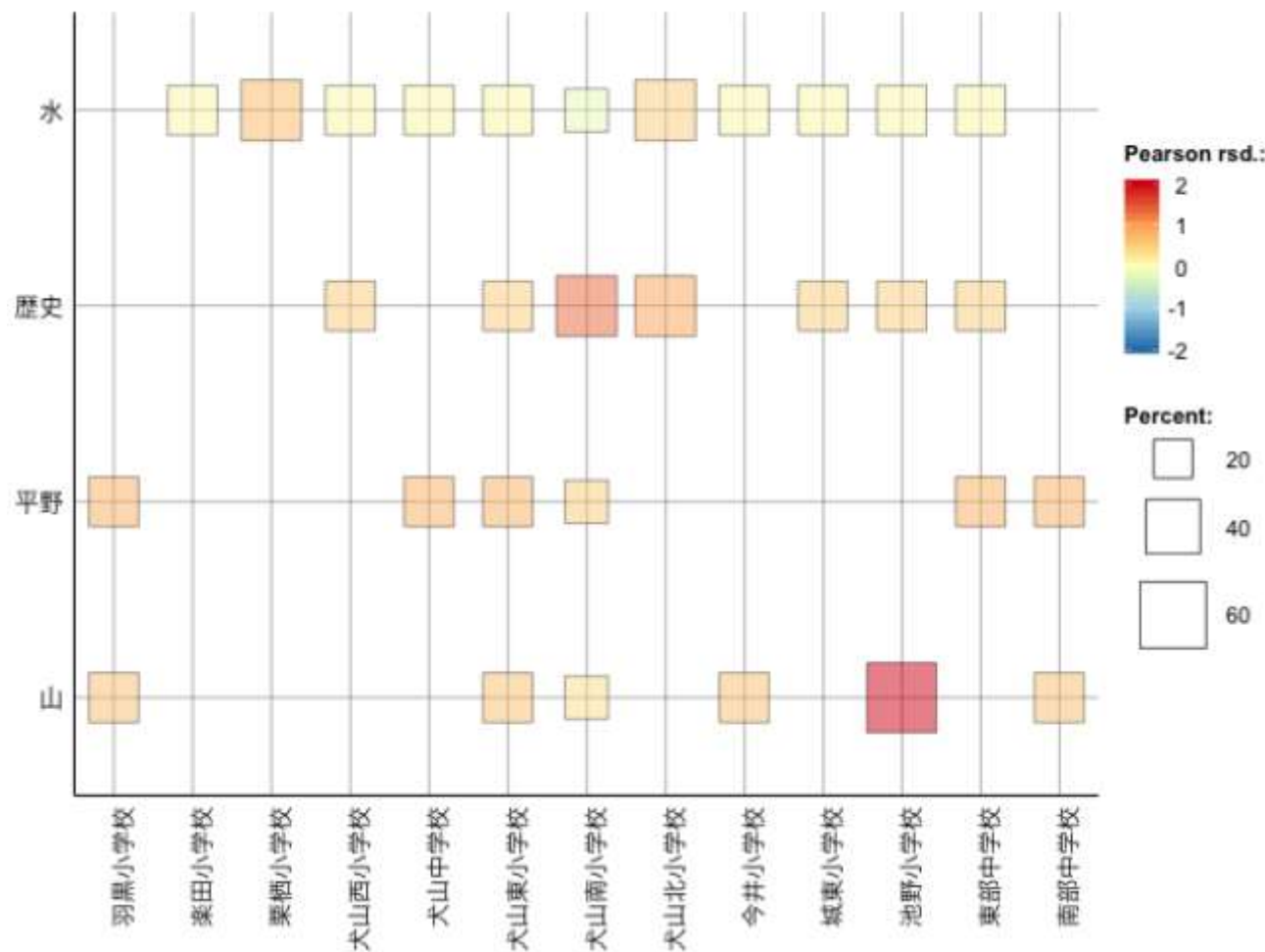
・次のグループが大きな固まりを形成している。

- ①「流れ」に関連するグループ
- ②「城」に関連するグループ



(3) 4つの言葉グループの出現頻度

- ・「流れ」「木曾」「水」などの言葉を「水グループ」と設定するなど、「水」「歴史」「平野」「山」の4つの言葉グループを設定。
- ・水グループは、羽黒小学校以外のすべての学校で出現。
- ・次いで、歴史グループが出現する学校が多い。



- ・水グループは歌詞の1番から4番までどこでも出現する
- ・歴史も歌詞の1番から3番で出現するが、3番のことが多い。
- ・平野は1番で出現することが多い。

